
テレビ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テレビ

【Nコード】

N0266M

【作者名】

【あらすじ】

勘違いから始まった恋。

それでも、幸せな恋でした。

（前書き）

書いてて、だんだん訳わかんなくなりましたw

えええ・・・。とか、思いかもww

ねえ……。よくさ、『ああ……。芸能人と友達になりたいよ才。』

とか、言ってる子がいるけどさ……。

私はそうは思わないんだ……。

思えないんだ……。

だつて……。

……………

初めて会ったのは、三年生の時。

同じ習い事で出会ったんだ。

「はじめまして。今日から、ここに入りました。よろしく願います。」

綺麗な挨拶……。

（かっこいい……。）

私は、一目ぼれをした……。

だけど、相手は、三つ上の六年生。

そんな恋は実るはずがなかった・・・。

当り前だ・・・。

それでも、片思いは続いた。

だけどね・・・。

。 本当は、六年生になったときぐらいから気づき始めていたんだ・・・。

「・・・それってさあ。本当に好きなの??」

「は?。」

それは、突然言われた一言だった。

同じ習い事をしていて、同学年で、同じ学校のすごく仲の良い友達だ。

「だ～～か～～ら～～。それ、本当は『好き』じゃなくって『憧れ』なんじゃないのかなあ。って。」

・・・『憧れ』・・・???

「う～～ん。でも、小3のころからずっと片思いなんだよ。」

「違うよ。小3のころから、ずっと『憧れ』なんだよ。」

いやいや。違うよ。だって。あの時、『一目ぼれ』をしたんだもん。

「だって、あの初めて会ったときから、『一目ぼれ』してたんだよ??」

「違うよ。あの時は子どもだったからそれを『恋』って勘違いしただけ。初めは、『かつこいい。。。』だけだったんじゃないの?」

。。。違う。。。違う。。。

「ははwwそんなわけないじゃん??」

「そんなわけあるよ、それってさ。そのかつこいいってさ。芸能人をつかつこいい。って思うのと同じことだとおもうよ。」

。。。ちがう。。。ちがう。。。ヤメテ。。。ヤメテ。。。

「あの人は、芸能人じゃないじゃん。」

「じゃあさ。もしも。。。あの人が芸能人だったら、三年越しの片思いになってた??」

ヤメテ。。。壊さないで。。。ワタシノ。。。セカイヲ。。。コワサナイデ。。。

「なつてたよおお。」

「ねえ。。。ハル?そろそろ分かり始めたんじゃないの??」

・・・ヤメテ・・・。

「っていうか・・・もう・・・分かってるんだよね??」

シラナイ・・・シラナイ・・・。

「違うな・・・。私が言う前から、ハルは本当は分かっていたんでしよう?小6になって。大人に近づいて行って・・・。そんなこと知りたくなくて・・・分かることに蓋をして・・・。それで、保っていたんでしょう??分かるよ・・・。三年間の片思いを無下にしたくなかったんだよね?三年間が・・・無駄になるような気がしたんでしょう??」

ヤメテ・・・無理やりこじ開けないで・・・。見たくない・・・。ヒラキタクナイ・・・。まだ・・・。駄目なんだ・・・。

「うつ・・・。うつ・・・。うわあああ。」

そう言つて。私は駈けだしてしまった。

・・・

朝起きるとテレビがついていた。

あれから、何をどうしたか覚えていない。

ただ・・・。あの。気持ちは・・・妙にリアルだった・・・。

「・・・。」

テレビをじっと見つめる。

（もしも・・・この中に、あの人がいたら・・・私は好きになんてならなかった・・・分かってるよ。忍が言ったことは。すべて事実だ。分かってるよ？？でも。ごめん。大人になりたくなかった・・・大好きだから・・・分かりたくなかった・・・この気持ち・・・）

でも・・・目の前を見ていなくなっちゃ・・・

分かってる。今。好きな人がいるんだ。

分かってる。でも、片思いの記録に挑戦したいだけ・・・わかってるよ・・・

だったら・・・やることは・・・決まってる・・・

ねえ・・・音羽くん。

私ね。あなたに区切りをつけようと思う。

『ぶるるる』

「はあ〜い。篠崎です。」

出た・・・

「あつー！おー！尾羽ですー！」

「えっ？？ああ。春ちゃん？？ふふつ。どうしたの？？」

ああ・・・やっぱり・・・泣きたくなるよ・・・。

「あのね。音羽君。私ね。ずっと音羽君が好きだったの・・・。」

『・・・』

無言・・・怖くなる・・・。

「でもね・・・ごめん。つじつま合わせの恋だったの・・・、もう・・・気づき始めたの・・・ごめん・・・ごめん・・・。」

「

何を・・・謝っているんだろう？？

「・・・そっか・・・。そっか。うん。そっか。でも。よかったね。ごめんね。俺も気づいてあげられなくて。俺、春ちゃんのこと好きだよ？？でも、違うから。つじつま合わせでも・・・大丈夫だよ。安心して・・・。次の本当の恋を発見して行こう？？」

・・・やっぱり・・・好きだ・・・。つじつま合わせの恋だった・・・。

でも。やっぱり。いつの間にか好きになっていました・・・。

「あ・・・ありがと・・・う。ありがと・・・。」

「うん。じゃあ。またね。」

「う・・・ん。うん・・・。」

優しすぎるあなたに恋をしてつじつま合わせで始まった恋だけど・
・。

ありがとう・・・私は幸せでした。

無駄な恋愛じゃなかったよ。

ありがとうございました。

「あれ？ハル？？どうかした？？」

「ん？？うん。ちょっとね。」

「すつきりしたか。」

「うんwwさあああ。本当の恋でもしますかああww」

「うんうんww」

・・・・・・

よくさ。『芸能人ともだちになりたああい。』

とかさ。言ってる人がいるけど。

わけわなくなっちゃうよ???

でもね。幸せな恋愛にはなるかもしれないよw

ただ。やっぱし。テレビのなかの人のほうが、わかりやすくって私は好きかな。

音羽君が、テレビの中にいれば、私は勘違いをしなくてすんだかもしれないけど・・・。

でも・・・。こんな幸せな思いをしなかったかもしれないね。

音羽君。私はあなたが今も大好きです。
でも・・・今は・・・。

尊敬していますw

（後書き）

最後まで読んでいただきありがとうございます。

実は、これ。軽くノンフィクションだったりしますww

まあ、全部じゃないんですけどねww

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0266m/>

テレビ

2011年1月3日22時00分発行